

■ 江戸時代の旅

江戸時代には、さまざまな要因により旅が盛んとなった。

とくに、

- ①貨幣制度の統一、②街道の整備といった交通状況の好転、
- ③関所・宿役人の設置による治安の安定、
- ④出版文化の隆盛 は、旅文化の発展に大きく寄与した。

また、江戸時代には伊勢信仰が流行し、「一生に一度はお伊勢参り」という考え方が人々の間に浸透したことで、多くの人々が伊勢参宮を目的とした旅に出るようになった。

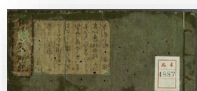


■ 江戸時代の旅と歴史資料

江戸時代、とくに18世紀以降には、出版文化が隆盛したことで、旅や名所に関する多種多様な書物や絵画が作成された。一方で、旅に出た人々が自らの旅を記録し、後世に伝わってきた。

名所案内記

いわゆるガイドブック。

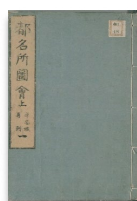


小型案内記

持ち運びを想定した実用的な案内記。モデルコースが記載されている場合も。

名所を俯瞰図で描いた図絵が特徴的。

『都名所図会』(1780)は大ベストセラー。



名所図会

旅日記

旅人が自身の旅を記録したもの。旅の経路、訪問地、旅人の思い、資金の用途などがわかる。

さまざまな旅の目的



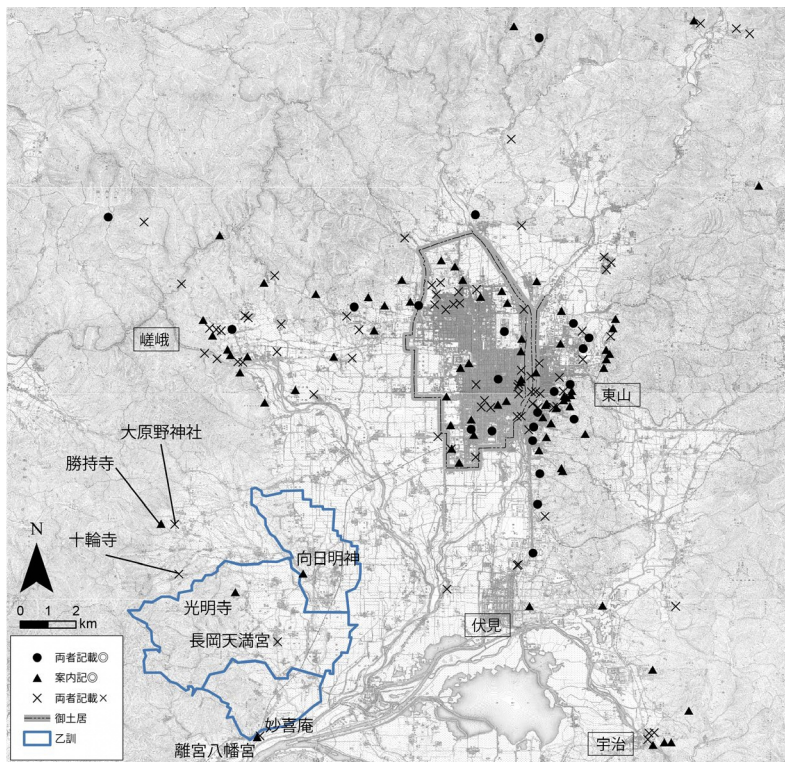
伊勢参宮を
目的とした庶民層

公用や遊学の旅をする
知識人層



■ 小型案内記と旅日記からみる乙訓の名所

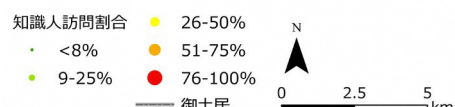
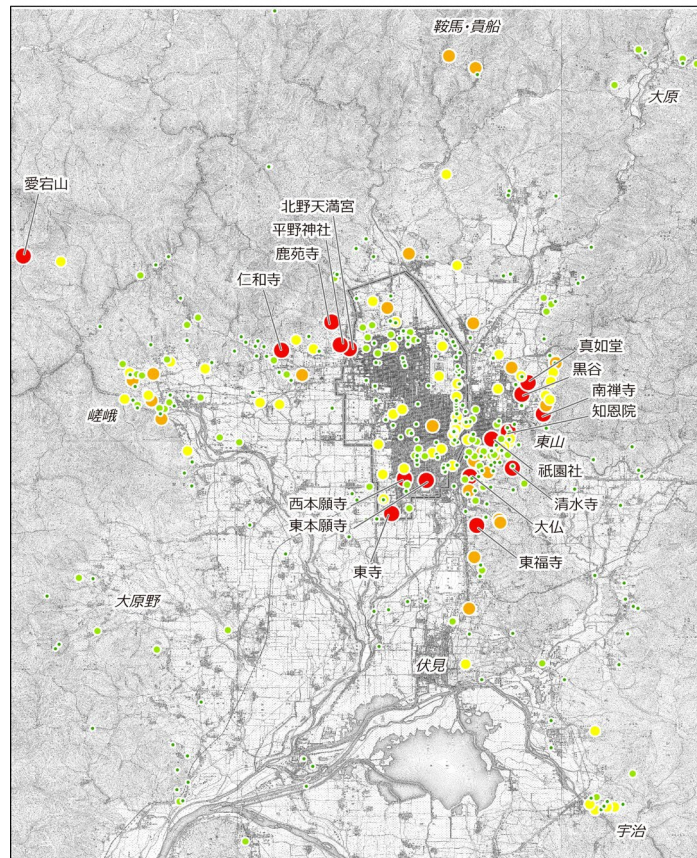
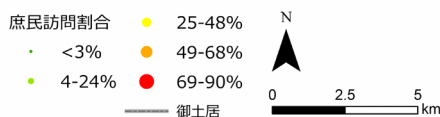
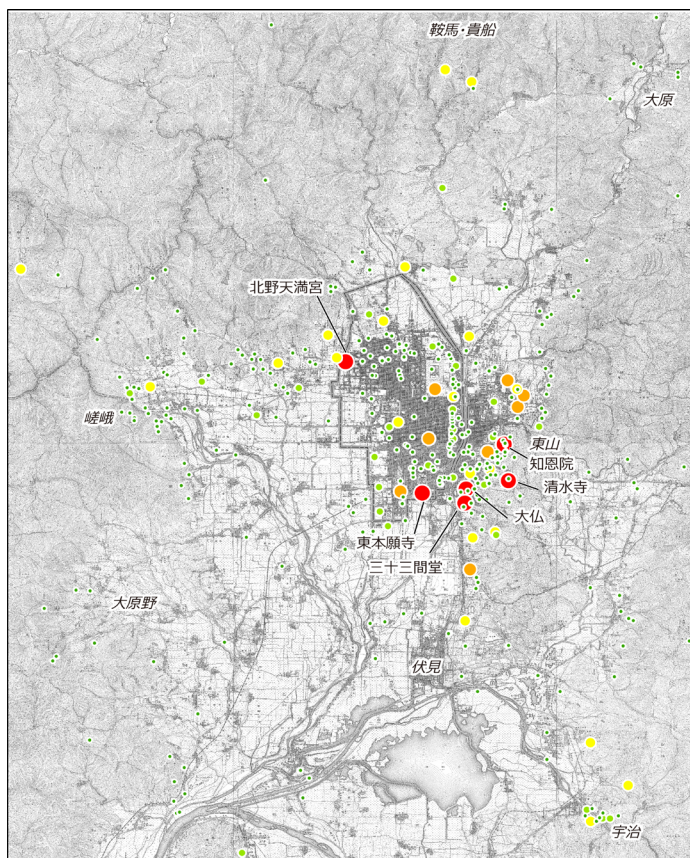
「実用的」とされている小型案内記 VS 旅人の書いた旅日記



実用的とされる小型案内記で取り上げられる名所や旅人の訪問地は、洛中・東山・嵯峨に集中している。→伊勢参宮をおこなったのちの旅人の経路とも関連



出典：発表者作成



出典：発表者作成